

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みどり学園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月9日	～	令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	令和6年12月9日	～	令和6年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・家族支援の重要性を念頭に置きながら、療育を行っている。	・親子通園クラスの継続。 ・保護者同士が交流出来る機会の設定。	・保護者会の再開もしくは保護者によるボランティア活動の活性化を図る。
2	・障害の重い子どもへの専門性の高い療育支援を行っている。	・外部講師を招いて研修会を実施。 ・専門職による研修や外部研修への参加。	・継続的なコンサルテーションを受け、専門性の向上を図る。 ・積極的な外部研修への参加。
3	・法人リードによる危機管理体制が整備。		・左記の体制に加え、当園の実状に合わせた体制整備を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもが過ごす環境が狭いこと。	・建築時から年数が経っており、設備も古い状況。 ・建物が昔の作りのため、使い勝手が悪い。	・令和9年度に建て替えの予定であり、より良い療育・生活環境を整えたい。
2	・保育所、こども園との交流(インクルージョン)等、地域に開かれた事業運営。	・利用児の状態による交流の場面の選定の難しさ。 ・受け入れ園の発掘。	・場面を選び、地域との交流を考える。
3	・SNS等の活用。 ・ICTの積極的な活用。	・利用したい場面や状況の選別が不十分。 ・職員の能力による利用の仕方の差。	・活用をイメージした時のメリットの共有を行う。